

本校のめざす児童像	1 主体的に自分の命を守り抜く子ども 2 ふるさと吉浜のよさに気づき、吉浜を愛し、地域の一員として復興や発展を支える子ども
-----------	--

【推進にあたって】

1 発達段階に応じた復興教育の全体計画の作成

目標達成に向け、それぞれの発達段階でどのような力を育てていけばよいのか系統性を考え、どの教育活動でその力を育てるかを明らかにして、全体計画を作成した。その際、全教育活動の要となる道徳教育を位置付けるとともに教科、領域の関連を考えた。

2 子どもの意欲を高める環境づくり～パネルに表す～

学習の最後のまとめとして、パネルを活用して一連の学習を展示し発信することに取り組んだ。こうすることで地域のよさに気付いたり、地域に貢献したりすることにつながる。また、他学年に広げることで、児童の意欲が高まっていくと考えた。



一連の学習を掲示して発信

【取り組みの実際】

平成25年度復興教育全体計画

<p>復興教育の理念</p> <p>児童の心から成長を願い、学校に寄せる期待と関心が高く、協力的である。</p> <p>地域との交流</p> <p>総合等の地域の方から学ぶ学習（外部講師）、生活科等の体験学習での活動、ふらさと吉浜のよさに一緒に活動、町探検、吉浜探検、地域一帯で学んだりと、交流した。</p> <p>復興教育の目標</p> <p>主体的に自分の命を守りぬく子ども ふるさと吉浜のよさに気づき、吉浜を愛し、地域の一員として復興や発展を支える子ども</p>	<p>学校の教育目標</p> <p>よく考え子ども 思いやりのある子ども たくましい子ども</p>	<p>児童の姿</p> <p>明るく誠意である。お年寄りや地域への思いやり心や親切な気持ちを持っている。反面、物事に積極的に取り組む意欲が低い。</p> <p>復興教育における児童の姿</p> <p>東日本大震災では、児童や家族に人的被害はなかった。ただ、全壊した建物のことや、震災を経験したことにより心のケアに配慮する必要がある。地域としては奇跡の集落と称されるまでになった歴史や先人の働きについてほげたい。</p>
<p>3つの教育的価値と本校の重点とする具体的项目</p>		
<p>1. 生命心について【いきる】</p> <p>① かけがえない生命 ② 夢や希望の大切さ ③ 心の教育</p>	<p>2. 人や地域について【かかわる】</p> <p>④ 家族のきずな ⑤ 県内外や海外の人々とのつながり ⑥ ボランティア ⑦ 地域づくり</p>	<p>3. 防災や安全について【そなえる】</p> <p>⑧ 自然災害の歴史 ⑨ 学校・家庭・地域での日頃の備え ⑩ 命を守り、生き抜くための知識</p>
<p>低学年</p> <p>① 生きることを選び、生命を大切にすることを学ぶ。 ② 誰れとでも仲良くし、健康・安全に留意して善い行動に励む。</p>	<p>③ 進んで家の手伝いなどして家族の役に立つ喜びを学ぶ。 ④ 被災して下さる方々に感謝する。 ⑤ みんなのために働く。 ⑥ 地域のよさについて、吉浜の自然のよさにふれる。</p>	<p>⑦ 震災時等の対応について先人や家族と話し合い、防災意識をもつ。 ⑧ 災害時における適切な避難の仕方を知り、実践する。</p>
<p>中学年</p> <p>① 生命の尊さを感じ取り、生命あるもの大切にする。 ② 自然の尊さや命の大切さを知り、健康に生活し、安全に留意し、最後まで努力して活動する。</p>	<p>③ 父母、祖父母を敬愛し、家族みんな協力しあって楽しい家庭をつくる。 ④ 地域の復興・発展のために働くことを知り、感謝する。 ⑤ 進んでみんなのために働く。 ⑥ 地域の伝統芸能や地域文化、地域のよさについて、吉浜のよさを伝える。</p>	<p>⑦ 吉浜の自然災害に関心をもつ。 ⑧ 防災意識の醸成について先人、防災意識をもつ。 ⑨ 災害時における適切な避難の仕方を知り、実践する。</p>
<p>高学年</p> <p>① 生命がかけがえないものであることを知り、自然の生命を尊重する。 ② 自然の尊さや命の大切さを知り、健康に生活し、安全に留意し、最後まで努力して活動する。 ③ 心の発達、不安、悩みへの対処を理解する。 ④ 健康・安全に留意し、自己の健康を大切に活動する。</p>	<p>③ 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求め、進んで役に立つことをする。 ④ 県内外から来た地域の復興・発展のために働いて下さっている方々に感謝し、共に協力する大切さを知り、感謝する。 ⑤ 社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役に立つことをする。 ⑥ 主体的に伝統芸能や地域文化、地域の方にふさわしい活動に意欲をもつ。</p>	<p>⑦ 吉浜の自然災害と、地域の発展に尽くした先人の働きを理解する。 ⑧ 主体的に防災意識の醸成について考えたとともに、他の人の安全にも気を配る。 ⑨ 伝統芸能を理解し、年少者向けに伝える方法を理解する。</p>

<p>関連する教科・領域及びその内容</p>		
<p>教科</p> <p>・公民(2年生生活) 1年生生活 ・理科(2年生生活) ・オプティカル(2年生生活) ・図工(2年生生活) 等</p>	<p>・総合(2年生生活) 1年生生活 ・地域に伝わる行事(3年生生活) ・昔のくらしとまじりく(4年生生活) ・よきまじりく、はなごころ(5年生生活) 等</p>	<p>・算数(5年生生活) ・国語(5年生生活) ・自然とともに生きる(5年生生活) ・生活のしかたと病気予防、不安や悩みがあるとき(健康) 等</p>
<p>道徳</p> <p>＜生命尊重＞1年「自分のいのち」「ハムスターのいのち」2年「はなごころのいのち」等 ＜郷土愛＞1年「ふるさとをのびのびに」「大さきおたまたまののび」2年「ふるさと先生」この町が好き ＜家族愛＞1年「おとうさんのカーブス」2年「ふらふら」等</p>	<p>＜生命尊重＞3年「目の見えない犬」「おぼろさん、おんぼろさん」4年「ハンダの命を救え」「おじいさん、おかあさん」 ＜郷土愛＞3年「心の花ばた」4年「あんなの思いが伝わる」といふ ＜家族愛＞3年「お母さんのお手紙」4年「お母さん、お父さん」等</p>	<p>＜生命尊重＞5年「命とつながり」1年「命」「命」「命を助けて」「アツシツツの命」「命」「命を助けて」「アツシツツの命」 ＜郷土愛＞5年「わたしの心のアルバム」 ＜家族愛＞5年「〇〇〇の思い出」「おが家の思い出」6年「吉きよきよ」「おが家の思い出」6年「吉きよきよ」「おが家の思い出」等</p>
<p>特別活動</p> <p>・花前祭、歌壇・自分の体を知ろう ・防災学習と下校時避難訓練(6月、10月) ・建設防災、交通安全啓発車作り(7～10月) ・三陸縦貫見学・ふるさと交流会(9月) 等</p>	<p>・花前祭、歌壇・自分の体を知ろう ・防災学習と下校時避難訓練(6月、10月) ・建設防災、交通安全啓発車作り(7～10月) ・三陸縦貫見学(9月)</p>	<p>・花前祭、歌壇・自分の体を知ろう ・防災学習と下校時避難訓練(6月、10月) ・建設防災、交通安全啓発車作り(7～10月) ・三陸縦貫見学(9月)</p>
<p>総合</p> <p>・新舞(3、4年) ・吉浜探検(3年) ・お母さん、お父さん(3年) ・おんぼろさんについて ・吉浜花見団、キャッチアップ体験(4年)</p>	<p>・新舞(3、4年) ・吉浜探検(3年) ・お母さん、お父さん(3年) ・おんぼろさんについて ・吉浜花見団、キャッチアップ体験(4年)</p>	<p>・新舞(3、4年) ・お母さん、お父さん(3年) ・おんぼろさんについて ・吉浜花見団、キャッチアップ体験(4年)</p>
<p>目標</p> <p>・新舞マラソン、なわとび</p>	<p>・新舞マラソン、なわとび</p>	<p>・新舞マラソン、なわとび</p>

教育的価値	具体的項目	教育課程
2 【かかわる】◎ 1 【いきる】	⑩【県内外や海外の人々とのつながり】人々を支援している人々に感謝し、共に協力することの大切さを実感する。 ⑬【地域づくり】温かい人々のつながりを大切に、地域づくりにかかわる。	特別活動 国語

【教材1】 吉浜道見学 【対象】 4～6年～ 感謝の手紙を書こう【対象】 4年

【実践の概要】 大船渡市三陸町の越喜来～吉浜を結ぶ三陸縦貫自動車道「吉浜道路」は、国道45号線の自動車専用道路となり、現在建設中である。この道路を作るために、全国各地から作業員が集まって日夜建設に携わっており、子どもたちに、実際に作っている所を見学させることで、

地域づくりの意識を高め、作業して下さっている方々に感謝の気持ちをもたせたいと考えた。

4年生は、吉浜道見学と国語の「お願いやお礼のお手紙を書こう」の単元と関連させ、吉浜道を見学させていただいた2つの共同企業体にお礼の手紙を書いた。



＜この学習から＞ たくさんの方々が復興・発展に向けて力を尽くされていることを知り、感謝の気持ちを子どもたちはもつことができた。その方々の姿から勤労観や人生観も学ばせることができた。また、見学と国語を関連させたことで、子どもたちは体験したことを活かし、感謝の気持ちを伝えたいという目的意識を強くもって手紙を書くことができた。

＜共同企業体の方から＞ 手紙を届けた翌朝、朝一番で学校に駆けつけて下さり、「思ってもいないお礼のお手紙と折り鶴に大変喜びました。事務所に飾って大切にしたいです。」「これから学習するときに、自分達にできることがあれば言って下さい。協力します。」との嬉しいお話をして下さいました。



教育的価値	具体の項目	教育課程
1 【いきる】◎ 2 【かかわる】	①【かけがえのない生命】全ての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にすること。 ⑬【地域づくり】郷土の美しい自然や温かい人のつながりを大切に、地域づくりにかかわる。	・特別活動（題材2） ・社会、総合的な学習の時間、道徳（題材3）

題材2 震災のお話と読み聞かせの会 ～郷土の絵本作家に学ぶ～ 【対象】全児童

【実践の概要】吉浜出身の絵本作家である小松則也先生を招き、実体験の震災のお話と自身が作られた絵本「浜の命」で読み聞かせの会を実施した。

<震災のお話の概要>

震災当日、小松先生のお母さんと妹さんは、陸前高田市の病院に入院していたお父さんのお見舞いに行っていた。そして、その病院で東日本大震災に遭った。お父さんは3階に入院していたが、そこまで津波が押し寄せた。お母さんと妹さんは、首の高さまで津波をかぶった中で生きる方策を考え、3人の命が助かったお話である。



<絵本「浜の命」読み聞かせ>

平泉町毛越寺からの依頼を受け、平成22年度から龍頭鷓首船りゅうとうげきしゆの製造にあっていた吉浜の船大工小松新一さんが震災で造船所や材料を失いながらも完成させたお話である。

<この学習から>

子どもたちは、震災のお話から津波の威力の恐ろしさともかけがえのない命を大切にして日々生活することを実感できた。感想の中には「漁師になってがんばりたい」「自分も目標をもって生活していきたい」等、震災を乗り越えて素晴らしい仕事をした吉浜の船大工の生き方や同じ吉浜出身として活躍する小松先生に憧れや希望を見出すことができた。

題材3 米作り

【対象】5年生

【実践の概要】本校の学区では、田でお米を育てている人がいる。本校の周辺には田があり、地域で体験を通して学ばせるには恵まれた環境の中にある。そのよさを活かし、5年生は社会科の学習に総合的な学習の時間を関連させ、田をお借りし地域で農業を営む方に教えていただきながら、米作りを行った。またこの学習の間、道徳との関連を図り、「生命尊重」の価値を重点としながらの授業も行った。

<p>くろぬり、代かき作業</p>	<p>田植え作業</p>	<p>はせがけ</p>	<p>収穫祭</p>
<p>土は冷たくて、意外と重かったです。上手に土手や田んぼの中ができてよかったです。</p>	<p>稲はうまく土に入らないと浮いてしまうのでしっかり植えるようで大変でした。</p>	<p>津波に流され、数少ない田んぼを借り、道具ももらって大切にお米を育てました。</p>	<p>自分達で調べたお米のことを発表しました。お家の人達においしく食べてもらって良かったです。</p>

<この学習を通して>児童はこの学習を通して、「いつも食べているお米を作るのはとても大変なことがわかりました」「最初はかんたんだと思っていたけれど、意外と難しかったです。」等の感想をもった。また、これらの学習から、お米を作る苦労や工夫の他に、お米を大切にする思いや、大変な作業によって一粒一粒のお米ができることに気付くことができた。教えて下さった方の温かい人柄にふれることもできた。これらの学習は、郷土を担う人材育成につながるものと考えます。

教育的価値	具体の項目	教育課程
2【かかわる】◎ 3【そなえる】	⑬【地域づくり】郷土の美しい自然や温かい人のつながりを大切に、地域づくりにかかわる。 ⑰【自然災害の歴史】過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫を調べ、次の世代に語り継いでいく。	・総合的な学習の時間、社会（題材4） ・総合的な学習の時間、道徳（題材5）

題材4 吉浜探検隊

【対象】3年生

【実践の概要】学校がある吉浜は過去の津波の教訓から高台移転し、東日本大震災では被害が抑えられた地区である。この震災後は「奇跡の集落」と呼ばれるようになった。そこで吉浜の先人の行いやよさに焦点をあてた学習を3年と6年で行った。3年生は地域に残る文化財（津波記憶石、慰霊碑等）の見学等、学習を行った。

授業の概略

- 町の秘密をゲストティーチャーに聞こう。
子どもたちが町探検で興味をもった、
・ 石碑の赤い字は？
・ 石碑はなぜ作られたのか？
等の質問をした。
- ゲストティーチャーと町探検
質問を受けて終わりではなく、さらに見てお話を聞くことで、学びを深めていった。
- まとめの学習
学習発表会で、クイズ形式で発表する等工夫し、地域に発信。その後、一連の活動を振り返ってパネルにまとめた。



<児童の感想>私は、むかしの人はとてもえらいと思います。理由はつなみのこわさを知らせるためにつなみ石をたてたからです。私がむかしの人だったらそこまでしよう来のことを考えないと思います。吉浜をととても大切にしているむかしの人に、感しゃをしたいです。

<保護者の感想>
何10年ぶりかで見えた学習発表会は感動しました。自分達が学習したことをパソコンで皆に分かりやすく説明していました。吉浜の知らないことがたくさんあったので驚きました。 3年保護者

<この学習を通して>学習により、地域が好きになったり、地域の良さに気付いたり、先人の知恵や功績に関心を深めたりする等の姿が見られた。また、ゲストティーチャーと関わって学習することを楽しいと感じる子どもが増えた。ゲストティーチャーも吉浜を知ってもらおうと、さらに調べ、尽力して下さった。

題材5 吉浜の歴史

【対象】6年生

【実践の概要】6年生は、地域の歴史に詳しい方にお話を聞き、吉浜の津波の歴史や復興について学習課題を決めた。その後、三陸町史の文献や資料を調べたり、吉浜自動車道見学を活かしたりし課題解決をした。調べて分かったことは学習発表会の劇で表現し発信した。

授業の概略

- 「奇跡の集落と二人の村長」
(講話)
地域の歴史に詳しいゲストティーチャーを招き、お話を聞いた。
- 「調べ学習」お話を聞き、一人一人が調べたいことを見つけ、それについて調べ学習に取り組んだ。
・ 新沼・柏崎村長について
・ 明治・昭和・平成の大津波について
・ 復興の道「三陸鉄道、高速道路」について
- 「まとめと発表」
学習発表会で劇やパソコンを活用し発表。学習をパネルにまとめた。



<児童の「学習したことを振り返って」>
新沼武右衛門村長は30年も村政を担当して信頼感と権威は絶大なものすばらしい人だと思いました。高台移転も行い、よくそんな考えが生まれたなあと思いました。それを守ってきた住民の人たちもすばらしいと思いました。

<保護者の感想>友達、命、地域などをテーマに取り組んでいることを感じ、「吉浜の歴史」について親も学ぶことができました。子どもたちの成長を見る機会として、とても良い学習発表会でした。

<この学習を通して>6年生はこれらの学習により、地域に対する興味・関心を深め、地域の一員として郷土を大切に、自分たちにできることを行っていくとする思いをもつことができた。

教育的価値	具体の項目	教育課程
3【そなえる】◎ 2【かかわる】	⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】避難場所や避難方法、避難経路を把握して安全に避難する。	特別活動

題材6 校長講話と防災看板づくり

【対象】全校児童

一人一人が図案を考えた。

【実践の概要】子どもたちの防災意識の育成を高めるために、保護者の協力を得て次のような手順で防災看板作りを行った。

看板完成までの流れ

- ① 7月の全校朝会の校長の防災の講話をきっかけとして、地区で1つずつ防災の看板を作ろうという声子どもたちから上がった。
- ② 地区の保護者の協力を得て、子どもたちは地区の危険な場所や避難場所の位置を確認し、地図に表した。
- ③ 地域の実態を知った子どもたちは、地域の方に呼びかける視点で看板に表すものを考えた。
- ④ 一人一人の児童の図案の中から、地区で表す図案を一つ決め作成した。
- ⑤ 出来上がった看板を紹介し合った。
- ⑥ 完成した看板は、地域や保護者の協力を得て、地区毎に設置した。

②危険な場所等を地図に表す



④どの言葉と絵にする？



⑤出来た看板を紹介



⑥地区毎に看板設置

題材7 吉浜小中合同下校時避難訓練

【対象】小学生、中学生、地域住民

【実践の概要】10月、全校児童65名、吉浜中全校生徒32名、地域住民約80名参加のもと、地区委員の保護者の方、地区公民館長さん方、警察官、交通指導員の方々、スクールガード、吉浜拠点センターの協力を得て行った。災害が発生した場合は、地区委員さんを中心とした体制になることから、その体制で実施した。

①地区ごとの下校



<防災学習を通して> 防災の学習により、子どもたちの防災の意識を高めることができた。また、市の防災訓練とも関連させ、地域みんなで子どもたちを守っていく意識を構築することにつながっている。今後はさらに工夫し、主体的に判断し行動できる子どもを育てていきたい。

②「訓練、地震発生」



防災無線を聞いて

③すぐ近くの避難場所へ



④地区委員さんの点呼



地区委員さんは点呼確認後、学校へ電話で報告。

⑤講評



避難の仕方は・・・

<復興教育に取り組んだ成果>

- 子どもたちが地域で学んだり、地域の方に教えていただいたりしたことで、地域とのつながりが深まった。また、地域のよさに気付いたり、郷土を大切にしようとする思いを育んだりすることに役立った。
- たくさんの人達が地域を思い、復興・発展に携わったり、地域のよさを伝えたりしている。ゲストティーチャーをはじめとし、自分の仕事に生きがいをもって働く姿、温かい人柄にふれたことで、よりよく生活しようとする思いにつながった。
- 子どもたちの学びを伝えることが、地域を元気にし、地域に貢献する一つになることを実感できた。

<課題>

- ・ 全体計画を見直し、相互の関連をさらに図って教育活動を充実させていくこと。
- ・ 培った力が他地域でも活用できるように、さらに工夫して取り組み、生き抜く力の基礎を養っていくこと。